

『安息日に行なうべきこと』

'20/09/13

聖書箇所:マルコの福音書 3 章 1-6 節 (新約 p.68)

皆さんは、「本末転倒」という言葉をご存じだと思います。その意味するところは、「根本的で重要なことと、些細でつまらないことを、取り違えてしまうこと。」であります。なるほど、確かに、今から 2000 年前のパリサイ人たちこそは、まさしく、“本末転倒”でありました。…と言いますのも、その当時のパリサイ人たちは、あまりにも…、神様が喜んでくださるような、「憐れみ」とか、「謙遜」、あるいは、「信仰深い…」というような性質とは程遠かったからです。

しかし、皆さん。ぜひ、このことはしっかりと覚えておいてください！パリサイ人たちが陥ってしまった過ちは、彼らだけのものではなく…、ここにいる私たちもまた、同じ罪人であるが故に、当時のパリサイ人たちと同じように陥ってしまいやすい過ちなのであり…、私や皆さんも、警戒しないとイケない問題なのです。今、そのことをご理解いただけない方がいらっしやうとしても…、今日のメッセージを真剣に聴いてくださったら…、きっと、皆さんが納得してくださるものであると確信いたします。

命題: イエス様が、ある安息日になして下さった御業とは？

今日の礼拝で、皆さんと一緒に学んでいきたい聖書のみことばは、週報に印刷されてあります通り、マルコ 3:1-6 の箇所であります。今日は、このみことばから、イエス・キリストが、ある安息日に、なして下さった3つの御業について見ていきたいと思ひます。そうすることによって、イエス様というお方が、如何に、愛と憐れみに満ち…、また、それと同時に、神の前に正しいことをしてくださったか、ということを考えていきたいと思ひます。それによって、今度、私たちもまた、このイエス様を模範として…、愛と憐れみの内に、真の神が喜んでくださるような、正しい歩みというものを益々送っていただけるようになることを願ひます。

I・病人に対して、憐れみ を示して下さった！(1-3 節)

まずは、今日のみことばの内、1-3 節までのみことばをお読みしたいと思います。そこから、イエス様が、ある病人に対して、“憐れみ”というものを示して下さった！ということを確認していききたいと思います。

- 1 イエスはまた会堂に入られた。そこに片手のなえた人がいた。
- 2 彼らは、イエスが安息日にその人を直すかどうか、じっと見ていた。イエスを訴えるためであった。
- 3 イエスは手のなえたその人に「立って真ん中に出なさい」と言われた。

●この時の状況

今読んだみことばをご覧くださいますと…、先週学んだみことばに続いて、今から見ていく出来事もまた、ある『安息日に…』起こった出来事である、ということが分かります。…ということですから、当然、この日にもまた、そこには、大勢の者たちが、会堂に集まっていたようです。当然、イエス様もまた、会堂におられ…、平行記事のルカ 6 章を見ると、そこで、イエス様は、いつものように、『教えておられた…』ようです。当然、イエス様は、会堂で教えるだけの権利と言うか…、それだけの要件¹を備えておられたようです…。

さて、そんなところに、ある病人がいました。それが、1 節に書かれてあります、『片手のなえた人…』であります。今日のみことばの後半をご覧くださいますと、『…その手が“元どおり”になった。』と書かれて

あることから、この人物は、生まれつき、片方の手に問題があったのではなく…、かつては、両手が自由に使っていたのが、何かの病が大ケガによって…、ある時から、片方の手が麻痺してしまっていたということが分かります。それと、今日のみことばの平行記事であるルカ 6 章を見てみると、この人物が不自由だったのは、右手であったことが分かります。…恐らく、この人物は、利き腕である右手が不自由だったと思われまふ…。

さて、そういったことを、じっと監視している者たちがおりました。それが、6 節に書かれてある、『パリサイ人たち…』であります。彼らは、ここ 2 節に書かれてありますように、『イエスが安息日にその人を直すかどうか、じっと見ていた。“イエスを訴える”ため…』でありました。パリサイ人たちには、ある程度、予想できていたのです。恐らくは、イエス様が、右手のなえた、この人物のことを放っておかないだろう、って…。実際、その通りでした。イエス様は、右手のなえた人物に対して、憐れみを示されたのです。

そこで、イエス様は、その右手のなえた者に対して、『立って真ん中に出なさい…』という風におっしゃいます。これは、イエス様のことを訴えてやろうとしていたパリサイ人たちからすると、絶好のチャンスです。…と言うのも、これで、イエス様のことを堂々と訴えることができるからです。

●その上で、イエス様がなされたこととは？

でも、一体どうして、パリサイ人たちは、イエス様が、安息日に人を直すかどうか、じっと監視していたのでしょうか？⇒それは、その…、「安息日に人を癒す！病を治す！」という行為が、当時のパリサイ人たちの言い伝えに背く行為であったからです！

もう少し後で、そのことを教えてくれているみことばを観察しますが…、先週も学んだ通り、この当時、イスラエルの者たちは皆、『安息日には、どんな仕事もしてはならない！』という、出エジプト記 20:10 や申命記 5:14 のみことばを重く受け止めて…、このことを固く守ろうとしていたのです。

このことは、先週にもほんの少し、皆さんにもお話ししましたが…、この当時は、安息日(=金曜の日没から、土曜の日没まで)に、『どんな仕事もしてはならない！』という戒めから…、それが病であろうと…、あるいは、大ケガであろうと…、“根本的な治療をすることは許されない…”そんな時代でした。ただ、治療をしないと…、その者の生命に関わってくるような場合に限っては、“応急的な措置だけ”を行なうことが許されていました。しかし、それも、応急的な措置に限定されていて…、それが病であろうと、大ケガであろうと…、その問題の根本的な治療を、安息日に行なうことは、厳しく禁じられていたのです。明らかに、私たちからしますと、そういったことが滑稽に映ってしまうのですが…、でも、それが、2000 年前、イエス様の時代には、当たり前のように考えられていたのです。

そういったことから、明らかなのは…、この時、右手のなえた人物がいましたが、その者の手が、安息日に癒される！ということは、この当時の社会では、決して許されることではありませんでした。例え、それが一家を支える父親であろうと…、あるいは、いたいけな子どもであろうと…、それが生命に関わるほどの緊急的な事態でない限り、決して、安息日に癒されてはならなかったのです…。

それが、今日のみことばで教えられているところの状況です。まず、こういったことが、しっかり理解できていないと、その後の、イエス様の教えやイエス様の行動を、十分に理解することはできません…。しかし、そういったことを、当のイエス様はご存じなかったのでしょうか？⇒…いいえ、イエス様は十分に分かっておられました。だから、今日のみことばの平行記事である、ルカ 6 章には、『イエスは彼ら(=パリサイ人たち)の考えをよく知っておられた。』とあるのです。イエス様は、すべてをご存じでした！…すべてのことを分かった上で、イエス様は、右手のなえた人物に憐れみを示されて…、その者を真ん中に出して…、つまり、大勢の前で、堂々と…、この後、癒しをなして下さったのです！

¹ 必要であれば、新聖書辞典の「会堂」の項目を参照のこと。

II・与えられているみことばの「意図」を説明された！（4節）

では、今度は、その癒しをされる前、イエス様が教えてくださった内容に目を留めたいと思います。それが、今日の2番目のポイントです。イエス様は、当時のパリサイ人たちが全くと言って良いほど、律法を与えてくださった神様の真意と言うか…、神様のみことばと言うべきものを理解できていなかったで、ここで、**パリサイ人たちに対して、与えられているみことばの“意図”（≒目的）というべきものを説明して**くださったのです。どうぞ、今日のみことばの4節をご覧ください。そこには、こう記されてあります。

4 それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか、それとも殺すことなのか」と言われた。彼らは黙っていた。

●「安息日の規定」が定められた、そもその目的とは？

ここで、イエス様は、所謂、「安息日の規定」というものを、パリサイ人たちが正しく理解できていないどころか…、逆に、その安息日の教えに振り回されてしまっている…、安息日の奴隷のような状態になってしまっているの、彼らパリサイ人たちに対して、実に、的を射た分かりやすい質問をしてくださっています。それが、今の4節です。

その4節を見ていくに当たって、申し訳ありませんが、その前に、**申命記 5:12-15**をご覧ください。ここには、所謂、「安息日の規定」が書かれてあります。『12 **安息日を守って、これを聖なる日とせよ。あなたの神、【主】が命じられたとおり**に。13 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。14 **しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息日である。あなたはどんな仕事もしてはならない。**—あなたも、あなたの息子、娘も、あなたの男奴隷や女奴隷も、あなたの牛、ろばも、あなたのどんな家畜も、またあなたの町囲みのうちにいる在留異国人も—**そうすれば、あなたの男奴隷も、女奴隷も、あなたと同じように休むことができる。**15 **あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、【主】が力強い御手と伸べられた腕をもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、【主】は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。』**

⇒このみことばは、つい先週にも学んだみことばですが、安息日に関する戒めが書かれてあります。ここを見ても…、神が、安息日を守るよう命じられている理由が2つ、書かれてありますけれども、皆さんは、覚えてくださっています？⇒…まず、1つ目は、自分たちがエジプトで奴隷であった時のことを思い出して、**社会的な弱者に対して、“憐れみの気持ちを持ちなさい！”**ということ…、もう1つは、**自分たちを、あの辛かったエジプトの地から助け出してくださった神を覚える、**ということ…であります。

実は、こういったことのために…、神は、イスラエルの民たちに対して、1週間の内、その1日だけを、『**聖なる日…**』、つまり、安息日とせよ！ということ命じられたのです。つまり、神が期待しておられたのは、イスラエルの民たちが、ただ単に体を休ませる（≒労働をしない）ということ以上に…、弱い者たちに対して憐れみを持つことであり…、真の神に感謝し…、その神をあがめることであったのです！

そういうことを正しく理解できますと…、先程お読みしましたイエス様の問い掛けに対する答えも、おのずと見えてきます。…と言うよりも、神が、どういったようなことを喜んでくださるのか？ということ、いちいち、みことばを確認しなくても、分かっていないといけなかったのではないのでしょうか！

⇒しかし、残念なことに…、この当時、パリサイ人たちを始め、多くの者たちが、そういうことに気が付かずにいました…。ちょっと、皆さん。もし宜しければ、マタイ12章の前半部分をご覧ください。このみことばは、ちょうど、今日のみことばの直前に書かれてある、イエス様の弟子たちが麦の穂を摘んで食べた、という記事が書かれてある部分なのですが…、そこで、イエス様は、旧約聖書ホセア書のみことばを引用して、こんなことをおっしゃっておられます。それが、**マタイ 12:7** です。『**わたしはあわれみは好む**

が、いけにえは好まない』ということがどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、罪のない者たちを罪に定めはしなかったでしょう。』⇒皆さん、お聞きになってくださいました？…神は、私たちが捧げるいけにえよりも、むしろ、私たちが憐れみの気持ちを持つことの方を、喜んでくださるのではないのでしょうか？

もう1か所、今度は、**マタイ 23章**をご覧ください。ここで、イエス様は、この当時の律法学者やパリサイ人たちのことを、「偽善（者）である！」と言って、痛烈に批判しておられます。その、**マタイ 23:23-27**をご覧ください。『23 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、**律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実を、おろそかにしているのです。これこそしなければならないことです。ただし、十分の一もおろそかにしてはいけません。**24 目の見えぬ手引きども。ぶよは、こして除くが、らくだは飲み込んでいます。25 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。26 目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。27 わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいいます。』

⇒ここで、イエス様が教えてくださっていることを、皆さんもよく理解してくださっていることと思います。確かに、この当時、律法学者やパリサイ人たちの行ないは、一見、表面的には良いものでありました…。しかし、その内側である、動機（=心）が問題であったのです！彼らの関心は、表面的な行ないにしかありませんでした。だから、この当時のパリサイ人たちは、人に施しをするのにも、わざわざ、会堂や通りで、それをしました。それは、大勢の人に見られて…、褒められたかったからです。祈りにしても、彼らは、わざわざ、通りの四つ角に立って、祈りを捧げました。それは、人々から信心深い…と思われたかったからです。…でも、それこそが問題だったです。

●神が期待しておられる、正しい反応とは？

パリサイ人たちの問題点…、それは、彼らが、神様ではなく…、周りの人間たちに、目を向けていたことではないでしょうか。本来、信仰と言いますのは、その人と神様との問題であるはず…、そうすよね？…にも関わらず、パリサイ人たちの目には、特定の者たちのことしか目が向いておりませんでした。それがイエス様であり…、イエス様に対する嫉妬や憎悪であったのです。

先程、確認をしましたように、そもそも、安息日とは、神様のことを覚えるために…、神様御自身が制定された…、1週間の内、1日しかない…、『聖なる日…』でありました。その安息日、人々は真の神に思いをはせ…、私たちの神様がどのような御方であるのかということ思い起こして…、神がどんなことを喜んでくださるのかということを考えて、行動するための1日であるはずでした。

今日のみことばに出てくる、この安息日の日、確かに、パリサイ人たちの体は、会堂にあって、律法の教え通り、何の仕事もしていなかったでしょうが…、でも、彼らの目は、イエス様の問題を見つけるために、忙しく動いていて…、その心の中は、弱者に対する憐れみどころか、何とかして、イエス様のことを訴えて、失脚させてやろうとして…、神の前では罪を犯していたのです。…そうでしょ？

これこそ、本末転倒ではないでしょうか！しかも、パリサイ人たちは、そういうことを、会堂において…、つまりは、真の神様のことを礼拝すべき…、真の神様にだけ思いを集中すべき場所と時間の中で、神の忌み嫌われる思いを持ち続けていたのです。…しかも、それは、神が遣わされた救い主に対して…。

実に、そういうことを気付かせようとして…、イエス様は、「あなた方がしていることは、果たして、本当に、神の前に善なのか？あるいは、悪なのか？いのちを救おうとしているのか？それとも、奪ってしまっていることなのか？よく考えなさい！」ということをおっしゃってくださったのです。

Ⅲ・癒しによって、ご自分が **キリスト** であることを示された！(5-6 節)

そうして、最後、イエス様が起こしてくださいました奇蹟である癒しに注目していきたいと思ひます。この癒しによって、イエス様は、ご自分こそが、“キリスト”であるということを示してくださいましたのです。どうぞ、今日のみことばの最後、5-6 節をご覧ください。

- 5 イエスは怒って彼らを見返し、その心のかたくななのを嘆きながら、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。
- 6 そこでパリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちといっしょになって、イエスをどのようにして葬り去ろうかと相談を始めた。

●癒しによって、証明されたこと

今日、私たちが見てきましたように…、安息日において、癒しが行なわれるということは、当時の社会からすると、それは大変なことでありました…。でも、だからこそ、パリサイ人たちは、イエス様のことを訴えてやろうと…、虎視眈々と、そのための機会をうかがっていたわけですよね。…というのも、パリサイ人たちは、「このイエスなら…、右手のなえた人物を見て、例え、それが安息日であろうとも、放つてはおかないだろう…」と予想していたのです。パリサイ人たちは、イエス様が憐れみ深い人物であることを分かっていた…、尚且つ、そのことを利用してやろう、としていたのです。それってひどくないですか？

もちろん、イエス様は、パリサイ人たちの魂胆をご存じでした。いや…、イエス様だけでなく…、恐らくは、その弟子たちも…、また、他の何人かの者たちも分かっていたことでしょう。でも、イエス様は、そういったことをすべてご存じの上で、その病人の、なえた右手を癒してくださいました。「明日、癒してあげよう！」ではなかったのです！

こういったことによっても…、イエス様というお方が非常に憐れみ深いお方であり…、また、神の力が、イエス様と共に働いている！ということが明らかになります。イエス様のおっしゃってられることは真実であり…、イエス様こそは、神が遣わしてくださいました真唯一の救い主であられたのです！

このイエス様は、私たちの罪を負って…、私たちが犯した罪の身代わりに裁かれてくださいました。それが、あの十字架です。イエス様は、そのことをすべてご存じで、この地上へと来てくださったのです。ピリピ 2 章が明確に教えてくれているように、イエス様は、まごうことなき神であられます。…にも関わらず、イエス様は、一見、私たちと同じような人間となって来てくださって…、そうして、私たちの犯した罪の贖いをなしてくださいましたのです！そのことを、イエス様の復活が証明してくれています。イエス様は、約束通り、3 日目に、十字架の死よりよみがえられました。そのことによって、私たちは、このイエス様が、真の救い主であられたということを信じていることができるのです。

●癒しを見たパリサイ人たちが取った選択とは？

でも、残念なことに…、この日、イエス様の奇蹟を目の当たりにしたパリサイ人たちは、そのことを信じ…、受け入れることができませんでした。いえ、この時だけではありません。イエス様は、何度も何度も、パリサイ人たちに対して、忍耐強く、数々の奇蹟を示し…、また、みことばの真理を解き明かしてくださいました。彼らに対しても、憐れみを…、救いの道を示し続けてくださいました。…にも関わらず、パリサイ人たちは悔い改めることをせず…、聞く耳を持たずとならなかったのです。

そういったことは、この時も同様でありました。この時、パリサイ人たちには、大きく分けて2つの選択肢がありました…。1つは、イエス様のことを救い主であると信じるまではいかななくても…、少なくとも、神の前に、自分の罪を悔い改めて…、自分のこれまでの歩みや考え方を、もう1度しっかりと見つめ直すことができたはずですが、でも、パリサイ人たちは、それをしようとはせず…、それとは正反対の、全く逆の選択を

してしまつたのです。

彼らを選んでしまつた、もう1つの選択…、それは益々、罪の深みにはまっていってしまつたのです。実に、彼らは、罪を悔い改めることがなかつたゆえに、益々、罪に罪を重ねていってしまつたのです。皆さんは覚えてくださっていますでしょうか？⇒アダムとエバによる、(恐らくは、)最初の子どもであつたカインは、自分の捧げ物が、神によって受け入れられなかつたことに腹を立てて…、激しく憤つてしまつた…。

ちょっと、皆さん。よろしければ、創世記 4:3-8 をご覧ください。『3 ある時期になって、カインは、地の作物から【主】へのささげ物を持って来たが、4 アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のもものを持って来た。【主】はアベルとそのささげ物とに目を留められた。5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかつた。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。6 そこで、【主】は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤つているのか。なぜ、顔を伏せているのか。7 あなたが正しく行つたのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕つている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」8 しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。』

ここで、神は、実に、興味深いアドバイスと言うか、カウンセリングをしてくださっています。それは、私たちが、正しくない選択をし続けるならば…、罪が、すぐそばで待ち伏せして…、罪が、その者のことを『恋い慕つている！』と言うのです。ここで、「恋い慕う…」(קָנָה)と訳されている言葉は、「支配する…」とも訳せる言葉で…、「罪があなたを支配するであろう…」というようにも訳すことができます。

最後、もう1度、今日のみことばに戻ってください。今日のみことばの 6 節の部分、ここを平行記事であるルカ 6:11 を見てみますと、そこには、こう書かれてあります。『すると彼らはすっかり分別を失つてしまつて、イエスをどうしてやろうかと話し合つた。』とあります。実は、このみことばを原語で観察してみますと、彼らは、「愚かさや無知によって、心がいっぱいになってしまつた…」というようなことです。

皆さんも、こういったような経験はないでしょうか？つまり、激しい怒りや失望…、あるいは、憎しみなどによって、すっかり制御不能となつてしまつているのです。現代風に、簡単に言うと、所謂、「キレた」状態かも知れません。こうなつてしまうと、一時的には、その感情が収まるまで待つことしかないように思ひます。しかし、そもその原因は、その人物が罪を犯し…、その罪を悔い改めようとしなかつたことなのです。しかし、この人物は、しっかりと、冷静になつて、自分のことを反省しようとしないので…、その者の心は、益々、頑なになっていきます。そういったような人は、益々、神の祝福から遠ざかつていってしまうのです…。

<励ましの言葉>

このことは、先週にも、お話ししたと思ひますが、確かに、神が、旧約の時代、イスラエルの民たちに与えられた安息日と…、今の時代の日曜日とは、大きく違うものです。しかし、1週間の中の1日だけ、神のことに強く意識して…、神に喜ばれることを行おうとするという部分に関しては、共通しています。そこで、今日、ぜひ、皆さんにお勧めしたいことは、まずは、この日曜日に、神が喜んでくださることを考え…、それを実践していただくことです。もちろん、神様が願つてられることは、週1日だけじゃなくて、私たちが毎日、神様に喜ばれるよう生きていくことです。

今日、皆さんは、どのような思ひで、この礼拝に出席していらっしゃるでしょうか？皆さんは、日曜日、教会に来て…、どんなことをしてくださっています？例えば、教会に来られた方に、意識して、声を掛けてくださっているでしょうか？例えば、病気の方であつたり…、試練の中にある方…、新しく救われた方…、初めて教会に来てくださった方…、久しぶりに教会に来られた方…、あるいは、最近、休みがちな方などに、お声を掛けてくださっているでしょうか？神は、ここにおられる皆さんが、神のみこころというものを理解し…、それを実践していかれることを願つておられます。ぜひ、日曜日はもちろんのこと、平日もまた、天の神様のことを覚え…、その神様に喜ばれるようなことを実践していただきますように、心から～